

TRAFFIC SCOPE

「TRAFFIC SCOPE」は交通参加者の行動観察を通じて、ドライバーやライダー、自転車利用者、歩行者に守るべきルールがあることを再認識してもらうための連載記事です。

交通参加者の行動を観察する

街を走る自転車利用者の行動を観察する

DATA 基礎情報

青切符による告知件数が最も多い違反は指定場所一時不停止

2026年4月1日、改正道路交通法が施行され、自転車への交通反則通告制度(青切符)が導入された。

警察庁が発表した制度導入後1月間の運用状況によると、青切符による告知件数は2147件(暫定値)。違反の内訳は、指定場所一時不停止(以下、一時不停止)846件(40%)、携帯電話使用713件(33%)、信号無視298件(14%)、しゃ断踏切立入156件(7%)、通行区分違反(右側通行)63件(3%)、その他71件(3%)と

なっている。
また、2025年の自転車の交通指導取締り状況を見ると、一時不停止(45%)と信号無視(28%)が全体の7割以上を占め、携帯電話使用(1%)はわずかだった。しかし、青切符導入後、携帯電話使用が2番目に多くなっていることから、運転中の「ながらスマホ」に対する取締りが強化されていると思われる。
当紙では、青切符が導入される以前の2024年11月に神奈川県川崎市と東京都江戸川区で街を走る自転車利用者の交通ルール遵守状況を観察した。今回は、青切符の導入によって自転車利用者の行動に変化があったかどうか、前回と同じ場所で観察した。

WATCHING 観察

一時不停止や信号無視など違反の割合は導入前とほぼ変わらず

観察場所Aは神奈川県川崎市の信号機のない交差点。近くには小田急電鉄「登戸駅」がある。観察を行った朝の通勤時間帯は、駅に向かう自転車が多かった。観察時間中に、ここを通行した自転車は302台。

ここでは一時不停止の自転車が目立った。「止まれ」の標識がある場所(2カ所)を通過したのは266台で、うち停止線の手前で一時停止したのはわずか1台(前回観察時は0台)。停止線を越えた先で止まった自転車は48台いたが、交差する優先道路をクルマやバイクが走っていたため、止まらざるを得ない状況が多かった。また、自転車が止まらずに交差点に進入するため、優先道路を通行するクルマのほうで停止して自転車に道を譲る場面も見られた。観察場所Bは東京都江戸川区の信号機のある

T字路の交差点。観察を行った夕方の時間帯は、付近にある商業施設に向かう自転車が多かった。観察時間中に、ここを通行した自転車は616台。

Bで目立つ違反は信号無視である。特に、突き当たり路を右に見ながら直線路を通行する自転車(写真参照)が赤信号で交差点に進入し、そのまま直進するケースが多かった。前回と比較して、信号無視する割合に大きな変化は見られなかった。

Bでは自転車のライトの点灯状況も観察。日没後(18:43~19:10)に通行していた108台中12台(11.1%)が無灯火だった。前回(11月)に比べ、今回(5月)は日没後しばらく周囲が明るかったため、ライトをつけ忘れ、無灯火となっていたと考えられる。

また、観察場所A、Bともにヘルメットを着用して運転していた自転車利用者はわずかで、非着用率も前回とほぼ同じだった。



観察場所Aでは優先道路を通行するクルマが自転車の存在に気づくと止まって道を譲っていた

ADVICE アドバイス

運転免許を持つ自転車利用者が周囲に模範を示してほしい

前回と今回の観察結果を比較すると、青切符導入の前後で、自転車利用者の行動に大きな変化は見られなかった。

交通ルールを遵守しようという意識は、まだ自転車利用者に浸透していないようである。特に、観察場所Aの一時不停止場所では自転車利用者の間に「止まらなければいけない」という意識が希薄に思われた。優先道路を走るドライバーも、この場所を走り慣れているようで、自転車が止まらずに交差点に進入してくることを予

測し、速度を控えていた。
一時不停止や信号無視は、状況次第で重大な事故につながりやすい。事故の相手がクルマやバイクの場合は自転車側が重大な被害を受ける可能性がある。交通ルールの遵守は、他者とともに自分自身を守ることにつながるのだ。
自転車利用者は違反行為の危険性を再認識し、車両の運転者として交通ルールを遵守しなければならない。自転車利用者の中には、クルマやバイクの運転免許を持っている人が少なくないはずだ。そうした方々が率先して一時不停止場所で止まるなど、街を走る自転車利用者の模範となる行動を示してほしい。

観察結果

観察場所 A

神奈川県川崎市多摩区
小田急電鉄「登戸駅」付近
観察日 / 5月12日(火)
観察時間 / 8:00 ~ 9:00
天候 / 曇り



停止線の手前で一時停止した自転車はほとんどいなかった

●自転車の運転状況(台) 総台数302台(うち一時停止場所通過266台)

スマホ使用	イヤホン使用	一時不停止	車道の右側通行	並進	ヘルメット非着用
1	4	265	1	2	294
0.3% (1.2%)	1.3% (2.7%)	99.6% (100%)	0.3% (1.2%)	0.7% (0%)	97.3% (97.6%)

*ヘルメットの着用状況は運転者のみを観察。()内は前回観察時の割合。



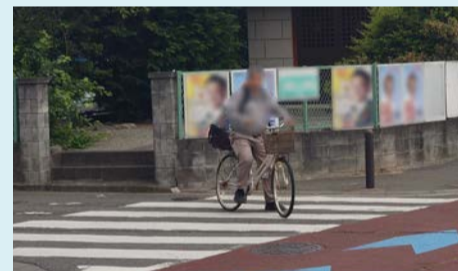
並進しながら止まることなく交差点に進入する自転車



イヤホンを付けて運転する自転車利用者



停止線の手前で止まった自転車。停止線の先でも一時停止して左右の安全確認をしていた



観察場所 B

東京都江戸川区
東京メトロ「西葛西駅」付近
観察日 / 5月15日(金)
観察時間 / 17:40 ~ 19:10
天候 / 晴れ



突き当たり路を右に見ながら直線路を通行する自転車が赤信号で交差点に進入

●自転車の運転状況(台) 総台数616台(うち日没後108台)

スマホ使用	イヤホン使用	信号無視	車道の右側通行	並進	無灯火	ヘルメット非着用
3	9	27	2	4	12	590
0.5% (0.8%)	1.5% (2.3%)	4.4% (6.5%)	0.3% (0.7%)	0.6% (0.6%)	11.1% (8.2%)	95.8% (98.1%)

*ヘルメットの着用状況は運転者のみを観察。()内は前回観察時の割合。



横断中の歩行者の間をすり抜けるように走る自転車



停止線の手前で止まって青信号が変わるのを待つことも



車道を逆走(右側通行)する自転車



ヘッドホンをつけて運転する自転車利用者